



全国青パトフォーラム in 日本財団ビル

【実施報告書】

2012年3月

日本財団 公益・ボランティア支援グループ公益チーム

はじめに

道路運送車両法の規制緩和により、2004年12月から青色回転灯装備車（通称青パト）運用が始まった。警察白書（平成23年度版）によると、全国で登録されている青パトは35,018台。地方公共団体を除くと、NPOが立ち上げたケース、自治会や地域振興会等が意欲的に始めたケース、子ども見守り隊等が地元警察や自治体から青パトの運行を勧められ始めたケースなど、さまざまな団体が独自に活動を行っている。

日本財団は2007年に1台の青パトを助成したことを皮切りに、2011年までに全国に計105台の青パトを助成した。自主防犯活動の底上げを目指し、防犯活動を実施する団体の模範となるリーダーを各地に育成してきた。同時に、事業開始直後から当財団職員が定期的に行ってきた現地調査や関係団体へのヒアリング及び助成団体から寄せられる相談により、以下のような実情が見えてきた。

- ・自分のまち以外の防犯パトロール事情を知る機会がない。
- ・青パト運行上の成功例や問題点を交流する場がない。
- ・全体的に（特に任意団体は）シルバードライバーが多く、若者が少ない。
- ・新しい隊員が増えず、地域の防犯意識の向上が止まっている。
- ・小学校区の見回りなのに、学校と深い連携がとれない。
- ・パトロール回数や範囲を広げたいが、ガソリン代の捻出が難しい。

これらの問題を解決する手掛かりを探し、より良い青パトの活動を実施するため、関係者が一堂に会し、目的を持って幅広く情報交換をする必要があると判断し、青パトフォーラムを開催することとした。本フォーラムの開催にあたっては、以下の目標を設定した。

目 標

- ・大都市の青パト活動の活性化を目指す。
- ・先駆的な活動事例報告を通して、参加者が感化し合う。
- ・現状を交換し合い、活動上の悩み等を共有し、改善・解決につなげる。
- ・全国的なネットワーク構築の足掛かりとする。

実施概要

1. 名称：全国青パトフォーラム in 日本財団ビル
「青パトで、広めよう防犯活動、つなげようネットワーク」
2. 日時：2012年3月17日（土）13：00～16：50
3. 会場：日本財団ビル 2階 大会議室、第1～4会議室
4. 主催：日本財団
5. 後援：警察庁、東京都 青少年・治安対策本部、警視庁 生活安全部
6. 参加者数：184人（85団体／163人、来賓他）
7. プログラム

- | | |
|-------|--|
| 13：00 | 開会宣言
主催者挨拶 尾形 武寿 日本財団 理事長
来賓挨拶
①宮城 直樹 警察庁 生活安全局 生活安全企画課長
②伊東 みどり 東京都 青少年・治安対策本部 治安対策担当部長
③松下 整 警視庁 生活安全部 生活安全総務課長 |
| 13：15 | 事例発表
①本杉 香 明大前商店街振興組合自警会 理事長
②御園生 賢司 NPO法人エンター 理事長
③片山 智雄 NPO法人守ってあげ隊 理事長 |
| 14：15 | 基調講演
島田 貴仁 科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長 |
| 15：10 | 休憩・移動（20分） |
| 15：30 | 分科会
①活動費用について（大会議室）
②組織運営について（2階第1-4会議室） |
| 16：20 | 終了（大会議室へ移動） |
| 16：30 | 分科会全体報告 |
| 16：35 | 講師講評
島田 貴仁 科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長 |
| 16：45 | 日本財団助成事業について 日本財団 益崎 慈子 |
| 16：50 | 閉会 |
| 17：00 | 懇親会 |

1. チラシ配布

- 配布枚数：16,000枚
- 配布先：警察庁、埼玉、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡各県警察本部
都内区市町村、都内各警察署、防犯団体（501件）
- チラシ：A4、4色／2色



2. ホームページ（プレスリリース）

- 掲載：2012年2月22日（水）より開始



参加者リスト

□参加者集計

カテゴリー	所在地	団体数		人数		備考
		参加	申込	参加	申込	
防犯団体	東京都	22	24	47	50	
	神奈川県	14	15	17	21	
	千葉県	8	8	12	13	
	埼玉県	11	11	22	24	
	茨城県	3	3	10	11	
	栃木県	3	3	6	6	
	群馬県	1	1	2	1	
	関東以外	12	12	28	30	16道府県
発表者・分科会	—	3	3	6	6	
協力団体		8	8	14	14	
来賓		—	—	20	20	
合計		85	88	184	196	

□参加団体一覧

団体住所		団体名
北海道	苫小牧市	北海道エクスプローラー
岩手県	盛岡市	境田町防犯パトロール隊
山形県	米沢市	米沢・川西青パトネットワーク
新潟県	長岡市	長岡市中興野防犯組合
富山県	富山市	安全企画センター
//	//	天瀬防犯協力隊
茨城県	つくば市	つくば市荻崎地区防犯連絡員協議会
//	//	SECURITY COP
//	//	茨城県つくば市中央地区防犯協会
栃木県	宇都宮市	山本防犯パトロール隊
//	佐野市	並木町堀之内防犯パトロール隊
//	足利市	犯罪抑止パトロール防絆会
群馬県	富岡市	富岡市青少年補導員協議会
埼玉県	入間市	狭山地方防犯協会防犯パトロール隊(武蔵台防犯パトロール隊)
//	川越市	川越市自治会連合会南古谷支会
//	草加市	八幡小学校区パトロール隊
//	//	安行ブローク パトロール隊
//	//	せざき防犯パトロール隊
//	//	草加八潮防犯協会草加地区青柳支部
//	秩父市	荒川商工会
//	松伏町	松伏町青色防犯パトロール隊
//	三郷市	三郷市鷹野東町会
//	//	彦成一丁目防犯パトロール隊
//	//	高洲・東町地区パトロール隊
//	和光市	旭産業
千葉県	市原市	エンター
//	我孫子市	布佐平和台自治会
//	柏市	柏市防犯交通安全組合
//	神崎町	水と森と人とIN神崎
//	佐倉市	クライネスサービス
//	千葉市	ユース・サポート・センター・友懇塾
//	//	京成宮野木用地防犯パトロールボランティアチーム
//	船橋市	八木が谷地区自治連絡協議会
//	//	千葉県船橋市高郷町会

参加者リスト

□参加団体一覧

団体住所		団体名
東京都	足立区	うめだ防犯パトロール隊
//	//	西新井防犯協会
//	//	西新井防犯協会椿町防犯部
//	板橋区	高島町会
//	江戸川区	桑川町親和会
//	北区	北区役所危機管理室危機管理課
//	江東区	塩浜自治会
//	渋谷区	本町二丁目町会・防犯パトロール
//	新宿区	大久保・百人町環境浄化対策協議会
//	杉並区	高井戸東地区防犯パトロール隊
//	//	防犯この町清め隊
//	墨田区	本所母の会（横川生活学校パトロール隊）
//	世田谷区	下代田東町会防犯部
//	//	松原三・四丁目自治会
//	//	明大前商店街振興組合自警会
//	練馬区	練馬ハートフルガーディアンズ
//	//	南田中町会防犯部
//	//	三原台防犯パトロール隊
//	文京区	柳町三和会防犯パトロール隊
//	清瀬市	防犯パトロール野塩
//	多摩市	多摩稲城防犯協会
//	羽村市	市民パトロールセンターはむら
//	府中市	白糸台東部自治会
//	町田市	高ヶ坂防犯パトロール隊
//	//	町田市中町中央町内会
神奈川県	小田原市	日本犯罪防止事業団神奈川県本部
//	//	小田原市国府津地区防犯活動協議会
//	川崎市	宿川原町会
//	逗子市	小坪交番連絡協議会
//	茅ヶ崎市	茅ヶ崎東町内会防犯パトロール隊
//	平塚市	平塚市防犯協会八幡支部
//	横浜市	本郷第三連合防犯拠点・活動推進委員会
//	//	横浜市都筑区大熊町大熊防犯部
//	//	神奈川防犯シーガル 青パト隊
//	//	港北防犯協会
//	//	上郷ネオボリス自治会 防犯パトロール隊
//	//	ヒルタウン第4自治会
//	//	緑防犯協会
//	//	末吉三、四町内会
//	//	横浜市緑区十日市場町自治会
岐阜県	高山市	下岡本町内会防犯パトロール隊
静岡県	袋井市	袋井市防犯推進協会
愛知県	名古屋市	東海福祉移動研究協議会
愛知県	新居浜市	守ってあげ隊
三重県	名張市	百合小校区防犯パトロール隊
滋賀県	大津市	真野北学区自主防犯推進協議会
大阪府	吹田市	千三地区青色防犯パトロール隊
大阪府	河内長野市	河内長野市南花台防犯協力隊
兵庫県	神戸市	ふくろう
兵庫県	//	スマイル防犯パトロール隊
岡山県	岡山市	庄内学区安全・安心ネットワーク
広島県	広島市	地域安全協会
山口県	光市	優喜会
福岡県	筑紫野市	御笠青色パトロール隊

※NPO法人等の法人格は省略しました

□事例発表①：本杉 香 明大前商店街振興組合自警会 理事長

日本財団青パト第1号。東京都世田谷区で活動。設立当初は、事件多発地域で、その最寄駅である明大前駅に交番を置いてもらえるように警察や行政に働きかけたが、近隣と交番との距離が近かったため、かなわなかった。では、立ててしまおうということで、民間交番を設置した。また、蛍光の黄色のジャンパーを導入し、パトロールを開始。NHKなどの番組で取り上げられ、全国から注文が殺到した。それを機に、全国で自主防犯パトロールのユニフォームが普及した。



※使用スライド（抜粋）

□事例発表②：御園生 賢司 NPO法人エンター 理事長

千葉県市原市内を中心に活動。青パトを「わんわん号」と命名し、童謡「犬のおまわりさん」を鳴らしながら、町内会を巻き込みパトロール活動を開始。徐々に地元の方々から、この音楽が流れるとパトロールがきてくれていることがわかって嬉しい、などの意見が寄せられるようになった。地元で活動を理解してもらえ、かつ防犯活動にもなるという事例として発表が行われた。



※使用スライド（抜粋）

□事例発表③：片山 智雄 NPO法人守ってあげ隊 理事長

愛媛県新居浜市を中心に活動。冒頭、NHKの情報番組「ご近所の底力」で取り上げられた際の映像が放映された。内容は、「ついで」の見守り。多くの方が、通勤や仕事での外回りや犬の散歩の「ついで」に青パトの活動を行うことで、他地域との連携ができ、防犯の目が届かない「すきま」をなくすことを可能にした仕組みが共有された。また、長く続けるコツは、自ら費用を負担しつつ楽しんで活動できる人を仲間に入れていくこと、また「普段防犯、いざ防災」として、災害時に連携できる体制も構築した。



※使用スライド（抜粋）

- 演題：「青パトを利用した、より効率が高い自主防犯活動のためのヒント」
- 講師：島田 貴仁 科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長

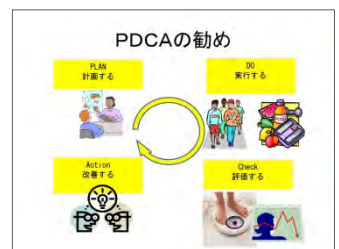
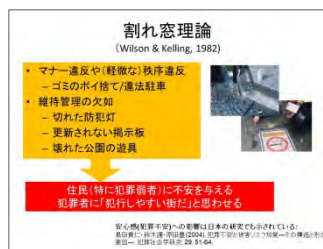
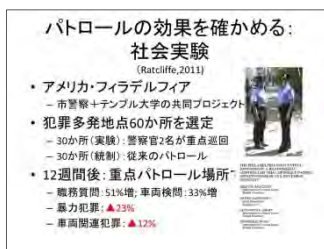
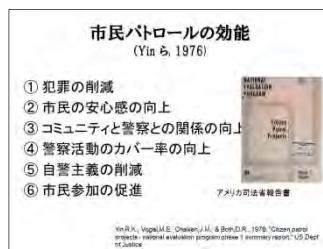
日本における自主防犯活動の概略説明ののち、アメリカの自主防犯パトロールの活動が紹介された。また、研究に基づいた青パトの効能が紹介された。

- ① 犯罪の削減
- ② 市民の安心感の向上
- ③ コミュニティと警察との関係の向上
- ④ 警察活動のカバー率の向上
- ⑤ 自警主義の削減
- ⑥ 市民参加の促進

上記の6つについて、割れ窓理論など、聴衆を引き込みながら細かく研究結果に基づいた成果が示された。

犯罪者の心理と行動が図式で示され、青パトの活動がそれをどのように防ぎ、事件や事故発生への減少に寄与しているかということの説明された。またアメリカ、フィラデルフィアにおけるパトロールの効能の実証実験の結果も報告され、暴力犯罪が23%減、車両関連犯罪が12%という数値がでたことを報告された。

また効果的に活動するためには、という話では、ダイエットを例に挙げ、PDCAサイクルを用いて、プロセスと結果を振り返ることの重要性が指摘された。



※使用スライド (抜粋)

□テーマ：「活動費用について」

□司 会：日本財団 公益・ボランティア支援グループ公益チーム 増田 昌久

□参加数：69人

・参加者に挙手アンケート

年間の走行距離は？ : 2～3千キロが多かった。中には2万キロを超える団体も。

年間の維持費？ : 10万円前後が多かった。中には30万円を超える団体も。

あといくら欲しい？ : 10万円が多かった。

現状の交流がなされた後、不況の中、行政からの支援も先細り、費用をどう捻出するかを議論した。

・河原 恭一 真野北学区自主防犯推進協議会 副会長 (滋賀県大津市)

「町内の各家庭から1人100円ずつ集めて活動費用に充てている」ことが報告された。その後、同じように集金している団体の話もあり、集金に理解を求めるには、青パトの活動を始める時が一番よいこと、100円を払うことによって、住民の防犯意識も高まることなどが報告された。

・奥田 勝 庄内学区安全・安心ネットワーク 会長 (岡山県岡山市)

「33の企業や団体から協賛金を得ている」ことが報告された。見回り地域の企業や商店などは、昔からの友人が多い。1つ支援してくれる団体が出ると、じゃあうちも、となる。自主防犯団体の中心になる人の顔の広さが決め手かもしれない。また、活動の立ち上げ時にはたくさん寄付をもらえるチャンスだが、活動の維持に対しては多くは望めない。やはり住民からの集金が必要で、そのためには、自分達の活動が地域に認められる必要がある、ということが共通認識された。

・浅井 徹 スマイル防犯パトロール隊 副理事長 (兵庫県神戸市)

「車両の維持費等は新しく設立した福祉関連の協同組合が出し、ガソリン代はパトロール隊の個人持ち」という報告があった。CSR (企業の社会的責任) を果たすのに何ができかがわからない企業等が多いので、地域を守る自主防犯活動にぜひ協力してもらおうと良い。地域の企業による活動として、自治体から補助を得る方法もあるかもしれない。けれども、青パトは地域に恩恵がある活動なので、やはり、お金を出し合っていくことが必要であると確認し合った。

・窪田 浩二 御笠青色パトロール隊 副会長 (福岡県筑紫野市)

「入会金500円、年会費500円をとって活動している」ことが報告された。既存の組織では会費徴収のような新たな仕組みを入れるのは難しいので、新しく組織を立ち上げることも一つの方法である。

隊員がお金を出して活動することで、パトロール隊の一員であることが誇りとなり、ステータスとなる。若い人が参加することにもつながってくる。

・まとめ

失敗例から学びたいという意見が出されたが、時間切れのため、懇親会にて意見交換を行うこととなった。

活動資金を広く薄く集めたり、支援を受ける方策を講じたりすることはもちろんだが、連携を持って、お金を出して実施する有償ボランティアという活動のあり方も、大切な視点であるということを確認して、分科会を終えた。

□テーマ：「組織運営について」

□司 会：日本財団 公益・ボランティア支援グループ公益チーム 高橋 秀章

□参加数：77人

・参加者に挙手アンケート

団体の平均年齢は？ : 40代1割、50代3割、60代3割、70代以上2割

隊員の人数は？ : 50~100人が大半で中には200人を超えているという団体も。

メンバーの顔触れが代わり映えしてますか？ : していないが大多数

・伊東 輝夫 南花台防犯協力隊 書記 (大阪府河内長野市)

活動に参加することがステータスとなり、女性の隊員が40人まで増えたという事例が報告された。フォーラム参加団体としては、団員の増加は1つの課題である。女性隊員を増やすノウハウが紹介されたことで、会場からは、自らの活動に弾みがつくなどの意見があった。また効果なども紹介された。

・畑 吉一 千三地区青色防犯パトロール隊長 (大阪府吹田市)

学校との連携を積極的に図ることの効果について報告があった。学校の担任も隊員になっている説明をすると、場内は関心が高まった。連携している小学校に着任した教員は、着任後すぐに青パトに乗車。学校区域、更にはその周辺の重点見回りポイントを見て回ることによって地域のことを理解してもらっているとのこと。このような活動を通じて、教員のみならず保護者にも青パト活動を理解をしてもらう仕組みが定着している。

・田川 清 八幡小学校区パトロール隊 会長 (埼玉県草加市)

従来決めていた活動地域だけではなく、活動地域を広げ、近隣地区と連携を図ることで、運転者が増えたという事例が報告された。小学生が必ずしも地域内から登校するわけではない現状を踏まえ、隣の地域だからと言って縦割りで物事を考えることなく、相手を味方にする事で活動の規模を広めていっている話が印象的だった。場内からは、他地域との連携をどのように実践しているかなど質問があった。

・黒川 行一 NPO法人エクスプローラー北海道 理事 (北海道苫小牧市)

カーシェア制度のアイデアを応用して青パトのカーシェアリングを行っている事例が報告された。カーシェアリングを始めたのは、自己財源が潤沢ではないが活動を継続するには何をすればよいか、と考えたことがきっかけ。カーシェア制度に加盟するためには、加盟団体にも費用負担をってもらうことで車検などのランニングコストを確保しているなどの報告があった。場内は、これまでにない発想で運用している実態に興味津津であった。

・まとめ

これまでの固定概念だけでは見出せない発表を聞くことで、自らの団体を活性化させていきたいという意見があった。組織運営について他の内容でも質問がしたいとリクエストもあったが、時間の都合上分科会では取り扱わず、懇親会にて意見交換するという事で閉会した。

記録写真

□主催者挨拶 尾形 武寿 日本財団 理事長



□来賓挨拶



□事例発表①
本杉 香 明大前商店街振興組合自警会 理事長



□事例発表②
御園生 賢司 NPO法人エンター 理事長



□事例発表③
片山 智雄 NPO法人守ってあげ隊 理事長



□基調講演
島田 貴仁 科学警察研究所
犯罪行動科学部 犯罪予防研究室長



□聴講者



□聴講者



□聴講者



□聴講者



□分科会 I



□分科会 I



□分科会 II



□分科会 II



□分科会全体報告



□看板



フォーラム終了後、各方面より多くの声が当財団に寄せられており、想像していた以上に反響が大きい。フォーラムを総括して振り返ってみたい。

- ・当日は荒天にも関わらず、欠席や途中退席がほとんどなかった。
- ・警察庁、東京都、警視庁からの後援名義の使用許可を得たこともあり、それぞれから開催の協力が得られた。
- ・事例発表では、地域の特性を踏まえた先駆的な活動が紹介され、参加者は熱心にメモを取っていた。
- ・基調講演においては、犯罪者心理などを科学的な研究に基づいて、青パト活動の効果が検証された。参加者からは、自らの活動がもたらす効果について客観的な説明がしやすくなるとの声が聞かれた。
- ・分科会は、活動する上で最も問題となっている点をテーマに掲げた。それぞれ解決のヒントとなり得る活動をしている団体から発言があり、質問や意見交換を行うことができた。
- ・分科会講評では、島田氏にその場でプレゼンデータを作成していただき、参加者にわかりやすいように今後の方向性を説明していただけたことは、とてもよかった。
- ・懇親会を設けたことで、意見交換が盛んとなり参加者の交流が深まった。

以上のことから、開催目標はおおむね達成できたのではないかと考える。

今後は、西日本にある団体の活動強化のために、関西地区でフォーラムを開催する予定である。関西地区の団体が抱える問題を分析し、より効果のある議論が行えるよう準備を行っていきたい。

(運営)

常務理事 佐藤英夫

公益・ボランティア支援グループ 公益チーム

チームリーダー 古川秀雄

高橋 秀章、柘方 瑞恵、益崎 慈子、高木 萌子、増田 昌久